

第3回桐生市総合戦略推進委員会ワーキンググループ 委員意見概要

分野	第1回における意見	第1回における意見に対する具体的意見 (第2回：「2 住宅」まで 第3回：「5 公共施設」まで)
ワーキンググループの運営	○ざっくばらんに意見を言えるような雰囲気の会議になるといい。 ○市は出た意見を無駄にせず、実現する熱意を持ってほしい。 ○本委員会以外にも若い世代を入れたワーキンググループのような機会を設けるといい。	○リラックスできるような会場の雰囲気づくりを継続する。 ○議題が常に見えるようホワイトボードを導入してほしい。
1 しごと	①女性が子育てしながら仕事も続けられるような桐生らしい取組があるといい。	○ファミリー・サポート・センター事業について、急な依頼への対応など内容の充実や制度の情報発信を強化すべき。 ○市内外のひとり親家庭も含めた子育て世代に対して情報発信を強化すべき。 ○手続きの土日対応やオンライン化ができるといい。 ○保育園における延長料金の免除、また、人件費削減のために夜間保育所を一箇所設置し、通っている保育園から一箇所にまとめたらい。 ○シェアハウスのような、お互い困った時は助け合うようなコミュニティがあってもいい。 ○3歳未満児の保育料の補助があるといい。
	②商店街の空き店舗等を活用し、低リスクで気軽に出店できるチャレンジショップのような、起業ができる所があるといい。	○桐生駅構内の「オーライ」のようなチャレンジショップを増やすか、「オーライ」の規模を大きくするなど、低リスクで出店できる取組が広がるといい。 ○物件の固定資産税の減免又は借りる人への継続的な補助があるといい。 ○お店の存続という自然淘汰される部分に補助をして延命するのは違う気がする。 ○物件・土地を借りたい人と貸したいオーナーをマッチングするコーディネート機関があるといい。 ○オーナーが物件を貸しやすくなるよう、商店街や不動産の組合に対して意見交換会を開くなど、行政はサポートしてほしい。
	③桐生市内で女性の雇用に力を入れている企業を集めて女性向けの合同企業説明会を開催するといい。	○男女共同参画の観点から、女性に限定することは難しいのではないかな。
	④例えば商店街の空き物件の固定資産税を減免するなど、お店が入るように活用を促進すると桐生が潤うと思う。	②と同じ。
	⑤起業支援について、インキュベーションオフィスもあるが、例えば新桐生駅にある平和ビルをワーキングスペースとして無料で利用できるようにするなど、拠点を作ることが重要。	○平和ビルは、莫大なお金がかかる話なので、あくまで一例である。 ○学校の授業の一環として起業に関することを中学・高校生のうちから少しずつ教えていき、意識付けするのもいい。 ○ワーキングスペースは市内にいくつかあるので、情報発信が必要。既に群馬県がまとめたサイトがあるので、桐生市のホームページにリンクを貼ればいい。

分野	第1回における意見	第1回における意見に対する具体的意見 (第2回：「2 住宅」まで 第3回：「5 公共施設」まで)
	⑥桐生市は伊勢崎市や太田市のように広い土地があるわけではないので、山間部でもできるような、自然環境を生かせる企業を選んで企業誘致することも大切。 ⑦精神疾患や病気で一度離職した後に職場復帰することに不安を感じている女性が多いので、職場のアルコール消毒とか整理整頓のような易しい仕事から始めて、少しずつ書類作成などの業務に移行していくような、リハビリのような就労支援事業があるといい。そのような女性を含めて弱者に優しく、居場所があって活躍できるまちづくりができると、自死などの自然減も減っていくと思う。	○山間部は、地域住民の声や宅地造成等規制法の適用を受ける規制区域に指定されていることから厳しいと思うので、桐生市全域で現在の企業誘致の取組を引き続き実施するといい。 ○行き着くところは情報発信であり、見た人がパッと分かるデザインにしたり、ホームページに分からないことを書き込めば解決するような掲示板を導入したりすべきである。 ○山梨県富士吉田市の定住促進センターのような、仕事、教育、子育て、移住などトータルで支援するような組織を作ると、全ての問題が解決する突破口になると思う。
2 住宅	①きりゅう暮らし応援事業（住宅取得応援助成）の夫婦加算について、もう一段階追加し、若い世代の夫婦に対して加算を増やすとともに、家を新築すると、税制上、固定資産税が3年間2分の1になるが、若い世代の夫婦には更に上乗せで税制優遇をするといい。 ②人口が増えていく期待が持てる地域に対して今まで以上の住環境の整備・投資をするといい。 ③旧市街地に生活の核となるような場がないので、官民連携で住環境の整備を行うことが必要。	○税制優遇については、きりゅう暮らし応援事業の見直しの中に含んで考えた方が簡素化されている。 ○きりゅう暮らし応援事業を継続し、かつ、若年層への加算の充実について検討すべき。 ○人口が増えていく期待が持てる地域ではなく、人口が減少する幅が少ない地域ということである。 ○例えば、相生町、広沢町、境野町、新里町など。 ○まちなかにスーパーマーケットなどの生活の核となるような施設がないので、そこで生活が全て間に合うような町並みが必要。 ○魚屋や肉屋などの専門店も必要であり、既存の店舗とのバランスを考えなければならない。

分野	第1回における意見	第1回における意見に対する具体的意見 (第2回：「2 住宅」まで 第3回：「5 公共施設」まで)
3 情報発信	①桐生市に興味を持った人がインターネットで桐生市を検索した時に、子育て、医療、福祉、住環境など、桐生市での暮らしがイメージしやすいような情報発信サイトがあるといい。 ②若い世代が一旦桐生市から出たとしても、桐生市の魅力に気付いて戻ってきてもらえるよう、桐生市の魅力を噛み砕いた情報としてアプローチするような施策がいい。	○定住促進センターのようなワンストップ窓口を設置するとともに、子育て、住宅、福祉など、全ての相談窓口となる移住コンシェルジュを業務委託のような形で設置するといい。 ○住む前の相談窓口と、住んだ後の相談窓口がそれぞれあるといい。 ○字が少なくて分かりやすく、写真なども入れて、見ていて楽しいホームページにするべき。 ○その人の年齢、性別、家族構成などの条件を選択するとその人に合わせた情報がパッと出るようなホームページがあるといい。 ○市のホームページは情報の強弱がなく見づらいので、検索回数が多いワードが出てきたり、その記事に評価が付けられて評価の高いページが上部に上がってくるようにするといい。 ○移住の際の補助金などを支給する際に、レビューをもらって記事としてサイトに公開するところまでセットにして、仕組みにすればいいと思う。 ○補助制度などを周知する際に、住宅であれば建設業、医療であれば医業などの関係機関からもPRや情報提供をしてもらえるよう、積極的に働きかけるといい。 ○庁内の縦割りの打破、情報共有を強化するべき。相談者の情報が全庁で閲覧できるシステムがあるといい。
4 教育	①子育て世代が移住するに当たって、教育の質の高さが大事であり、エリートを養成するような教育ということではなく、地元の人や企業など周りの環境を巻き込んだ、子どもがのびのびと個性を伸ばせるような、特色のある学校運営があっていい。 ②先日開催されたミニきりゅうのように、子ども達を巻き込み、桐生市の魅力を知ってもらうだけではなく、どうやったら桐生市が良くなるのかを彼らに考えてもらい、意見を出してもらうことが重要。 ③教育はとても強く、教育のために移住する人は多いので、特に小・中学校の義務教育に特色を出して教育の競争力を高めていくと社会増につながる。その中で、多様な選択肢があって、ドロップアウトを出さないとか、その教育の中にいなければいけないという強迫概念が和らぐと、子どもがのびのびとできて魅力が高まると思う。	○群馬県に要望するなどして高校のレベルを上げていってもらいたい。 ○例えば普通高校と商業・工業高校との間で交換授業ができると、将来の幅が広がると思う。 ○小・中学校における適正配置・適正規模を推進する中で、専門教科を教えてくれる、良い先生がいるのが望ましい。 ○黒保根学園において、市内に限らず県内外から生徒を受け入れたり、短期留学のように短期的に受け入れられたらいい。また、二拠点生活ができるよう黒保根の住宅を安く提供して、都内から受け入れる方法もあるのではないかな。 ○長野県の伊那小学校や京都府の西京高校のように、先進的な特色のある教育をどんどん研究し、また、どんな子どもを育てたいのか、どんな力が身に付くかをアピールできるといい。 ○桐生の自然は特色として外せず、各学校で自然に触れる教育をしているが、他地域の人は知らないと思うので、情報発信や魅せ方が重要。

分野	第1回における意見	第1回における意見に対する具体的意見 (第2回：「2 住宅」まで 第3回：「5 公共施設」まで)
5 公共施設	①人口減少が避けられない中、いかに公共施設を豊かで魅力的に見せていくかということが大事。例えば公共施設に企業を誘致して人が集まって稼げる施設にしておくことや、また学校についても早く統廃合を進め、クラスメイトが沢山いるという環境を作ってあげることが若い世代にとってはいいのではないか。 ②既存の建物をリノベーションすることも大切であり、その際の申請のハードルを低くする、または後押しするような制度ができるとよい。 ③例えば公共用地を民間に貸し出しすればお金が入ってくるのに、そのようなお金を生み出すような事業を桐生市はあまりやっていない。他の委員会で議論しているとは思いますが検討のスピードが遅く、その間にも人口は減っていくので、そこをどうしていくべきか話し合っていかなければいけない。	○新しい事業を実施するにはその分の収入が要る。公共施設は財源なので、上手く活用してほしい。 ○跡利用検討方針だけにとらわれず、突然の要望に対応できるようにするため、未利用の公共施設の老朽化した建物は壊しておくなど準備しておいた方がいい。 ○耐震費用を投資して賃料で採算が取れるということであれば耐震化すべき。そこに働く人がいたり、定住する人がいれば人口減少対策となる。事業を総括して実現する人がいないのが問題である。 ○クリエイティブな人たちが多い桐生の特色を生かし、廃校を活用してものづくり学校や大川美術館と連携したアーティスト・イン・レジデンスをやってもいい。その賃料を耐震費用に充てて少しずつ耐震補強を行っていけば、壊すより費用はかからないと思う。 ○オランダのテキスタイルミュージアムは、アーティストにお土産のデザインをしてもらうことで採算を取っている。これができればアーティストは桐生に恩義を感じるし、自分の作品も発信できて、お金も生まれる。
6 観光	①桐生市はイベントが多いが散発しており、他地域の人ほどの日に行けばよいか分からないということもあると思うので、特定の日を設けて一つのイベントに集中した方がよいと思う。 ②桐生市の観光は、市民が中心となって色々なイベントをやっているが、桐生市がそのハブとなるべきだと思う。観光のことを考えて動いている人は沢山いるので、その人達の意見を取り入れて動くことができれば、桐生市全体の観光の発展につながり、お金を動かすことができる。	第4回で議論を行う。 〃
7 子育て支援	①桐生市で子どもを産むということも大事だが、子どもがいる人を呼ぶことも大切であり、例えばシングルマザーを大切にすまちということでシングルマザーを呼び込み、そこで桐生市の独身の男性と結婚して子どもを産んでもらうということも即効性のある施策だと思う。	〃

分野	第1回における意見	第1回における意見に対する具体的意見 (第2回：「2 住宅」まで 第3回：「5 公共施設」まで)
8 その他	①特に女性の減少が目立っているとのことだが、女性と区切ってしまうと今の時代に合っていない。同性のカップルなどどのような人でも桐生市に興味を持って移住したいと思ってもらえるような施策を考えることが大事なのではないか。	〃
	②無理に桐生市に人を留めようとするのではなく、敢えて一旦外へ出ることも大事。その際、市内で過ごした時に、地元の方でも移住者の方でも、このまちを面白い大人と話したり一緒に活動したりする経験があると、ずっと心に残り続けるので、地元に関わったり、Uターンするきっかけになる。	〃
	③一回桐生に来たら桐生を好きになってくれる人が多いので、関係人口を増やしていくことが大切。	〃
	④色々な世代の人達に会議の情報を発信して参加してもらうなど、市民を巻き込むことが大事。	〃
	⑤市の職員が桐生市を楽しみ、語れるような場を作ってアピールしていただきたい。	〃